

英語 仮定法 (subjunctive) のまとめ

◎if節を使った、反実仮想の条件文

- ・条件：現在 → 帰結：現在 条件節：「過去形」 帰結節：「過去形」
If S' {過去形} ～, S would {原形} ～.
- ・条件：過去 → 帰結：過去 条件節：「過去完了形」 帰結節：「過去完了形」
If S' had {過去分詞} ～, S would have {過去分詞} ～.
- ・条件：過去 → 帰結：現在 条件節：「過去完了形」 帰結節：「過去形」
If S' had {過去分詞} ～, S would {原形} ～.

◎未来についての非現実的な仮定

- ・「万一」の should ※万に一つはあり得ること。 ※帰結節は、will も可、命令法も可。
If S' should {原形} ～, S would {原形} ～.
- ・「仮に」の were to ※あり得ないことでも可。
If S' were to {原形} ～, S would {原形} ～.

◎ifの省略と倒置

- ・仮定法を用いた構文では、条件節の接続詞「if」が省略されることがあり、その場合、if節内の語順が、普通疑問文と同じ語順に変わる。

◎if節がない仮定法の文

- ・if節がなく、仮定法の帰結節のみの反実仮想の文もある。その場合は、条件が文脈から明らかか、if節でない表現 (with 句・分詞構文・主語中の形容詞など) で条件が示されている。

◎仮定法を用いた慣用表現

- ・反実仮想の願望表現 (～ならよかったのに。) ※主節は、願望した時に合わせる (過去形も可)。
S wish S' {過去形} ～. ——— 主節と同時
S wish S' had {過去分詞} ～. ——— 主節より昔のこと
- ・実現不可能な希望・悔しさ (～さえすれば[していたら]なあ。)
If only S {過去形} ～! ——— **現在**、実現できないこと
If only S had {過去分詞} ～! ——— **過去**に実現できなかったこと
- ・仮定法を用いた比喻表現 (あたかも～する[した]かのように) ※ifの代わりに though も可。
as if S' {過去形} ～ ——— 主節と同時
as if S' had {過去分詞} ～ ——— 主節より昔のこと
- ・不存在の仮定条件 (もし～がなかったら ; =without ～ ; =but for ～)
if it were not for ～ ——— **現在**の仮定条件
if it had been not for ～ ——— **過去**の仮定条件
- ・時間に関する、現実と異なる使い方の提示 (もう～してもいい時間だ)
It is (high / about) time S' {過去形} ～.

◎仮定法現在 (=動詞の原形)

- ・重要性・適切性・命令・提案などの内容を表す that 節中では、動詞は仮定法現在形を用いる。
- ・仮定法現在形の代わりに、「should + 原形」を用いる場合もある。